

轍

わだち



発掘調査速報
坊の塚古墳第4次発掘調査
坊の塚古墳と地形
山後2号墳発掘調査

埋文エッセイ
古代の馬と人々

～30年度の発掘調査成果から～

埋文センター
平成30年度の歩み



山後2号墳発掘調査出土遺物
勾玉、ガラス玉、坏身、^{はきり}甕、高坏

坊の塚古墳第4次発掘調査

坊の塚古墳は各務原市鵜沼羽場町に位置しており、4世紀末に造られた、墳長 120mの前方後円墳です。平成27年度から5ヶ年の発掘調査を継続中です。

第4次となる平成30年度の発掘調査は、前方部に調査区を4ヶ所設定して行いました。調査の結果、前方部の築成や構造の詳細が明らかとなり、坊の塚古墳の墳形を復元することができました(図1)。

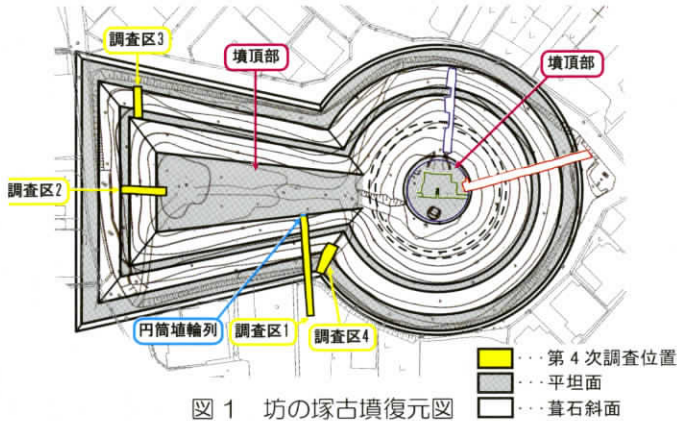


図1 坊の塚古墳復元図

調査成果① 葺石

設定した全ての調査区で、墳丘斜面が葺石で覆われていることが確認でき、これまでの調査結果と併せて、前方部と後円部の斜面全体が葺石で覆われていたことが分かりました。

前方部は、これまで二段築成であると考えられてきました。しかし、調査の結果、墳丘の裾部分に設けられた道路の下から、もう一つの平坦面が見つかり、三段築成であることが分かりました(写真1)。

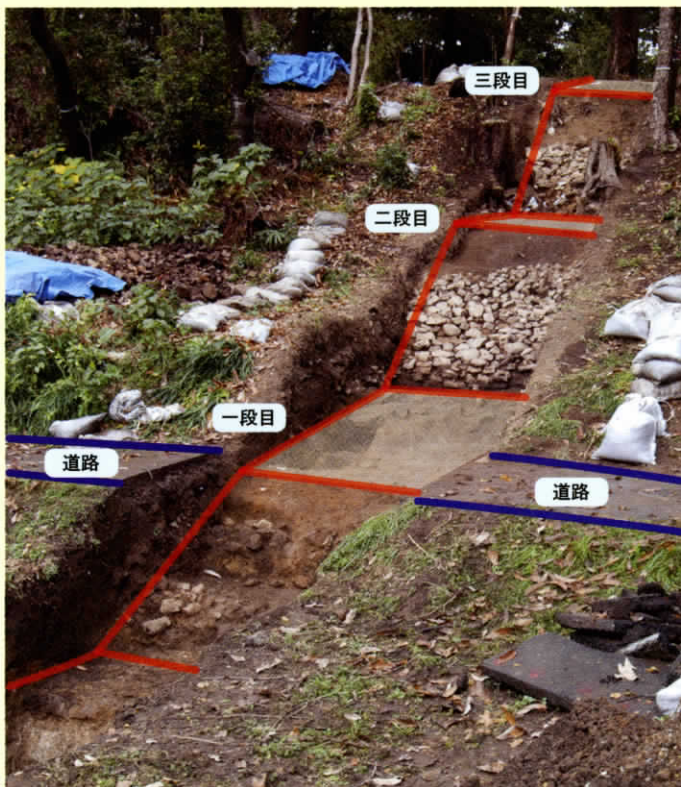


写真1 前方部段築(調査区1)

調査成果② 円筒埴輪

墳頂部では円筒埴輪列が確認されました(写真3)。出土した部分は埴輪の基部のみでしたが、原位置を留めており、墳頂部を囲うように端部に配置されていたと考えられます。

多くの古墳では、一段目や二段目の平坦面にも埴輪が配置されていますが、坊の塚古墳では、前方部・後円部ともに配置された形跡は確認できませんでした。このことから、円筒埴輪は墳頂部のみに配置して、他の平坦面には配置しないことが坊の塚古墳の特徴の一つではないかと考えられます。



写真2 円筒埴輪(平成28年度調査出土)



写真3 円筒埴輪列(調査区1)

調査成果③ 前方部と後円部の境目

前方部と後円部の境目の位置を特定することができました。基底石がしっかりと残っており、くの字状に屈曲していることが分かります(写真4)。また、縦方向に区画列石が積み上げられており、前方部と後円部の境界線も確認することができました。

古墳が造られた当時の位置を保っている葺石が多く、葺石の施工順序をうかがい知ることができました。まず、基底石を後円部から配し、境目となる縦方向の区画列石を積み上げてから、全体に石を葺いたものとみられます。



写真4 前方部と後円部の境目(調査区4)

坊の塚古墳と地形

坊の塚古墳は低位段丘面を望む各務原台地の崖上に位置しています。なぜこの場所に築造されたのか、坊の塚古墳が造られた場所の地形から考えていきます。

各務原市は美濃山地の南縁部山地、濃尾平野北部の洪積台地・沖積低地からなります(注1)。中央部に広がる各務原台地の東部には、木曾川が削って生まれた低位段丘面が広がり、その段差は10～15mになります。

坊の塚古墳は、この各務原台地の縁辺部に立地しています。古墳の向きに注目すると、台地の縁辺と平行に造られていることが分かります(図1)。これは、低位段丘面からよく見えるようにしたためと考えられます。古墳は、権力者の墓であるとともに権力を誇示するための象徴でもあり、「見せる」ことを重要視していました。そのため、低位段丘面や木曾川を挟んだ愛知県側からでも望むことができる台地に古墳を築造したと考えられます。

このように周辺地域を望むことができる場所に古墳が造られることは珍しいことではありません。岐阜県最大の前方便円墳である大垣市の昼飯大塚古墳は、坊の塚古墳と概ね同時代に造られた古墳です。古墳の北側に標高221mの金生山があり、そこから派生する段丘に立地しています。西の関ヶ原方面には後の不破の関を望むことができ、東国の入口にあたる場所といえます。

前方便円墳は、ヤマト政権の独自の墳丘形状といわれ

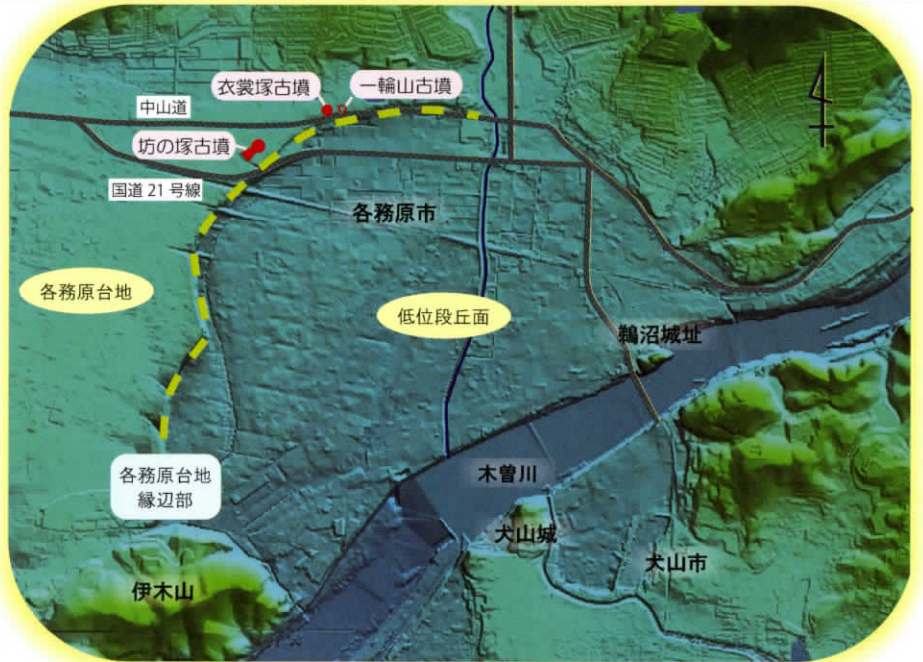


図1 坊の塚古墳の位置と鶴沼地域

ます。昼飯大塚古墳が造られた背景には、東国への出入口を治めたいヤマト政権の動きがあったと考えられます(注2)。

また、岐阜県には、揖斐川・長良川・木曾川が流れており、美濃の前方便円墳はこれら河川の近くに多く造られています。その理由として、様々な物資や人、情報等を運ぶために、これら河川の掌握を図ろうとした結果ではないかと考えられます(注3)。

坊の塚古墳は各務原台地の縁辺部に造られているため、見晴らしが良好です。犬山城の方向を眺めると、低位段丘面や木曾川、犬山扇状地を見渡すことができます(写真1)。この立地状況を踏まえて坊の塚古墳の築造に至った経緯を考えると、木曾川を使用した水運と、尾張への勢力拡大を目的としたヤマト政権の影響が挙げられます。

濃尾平野の北東端に位置する低位段丘面や木曾川は、尾張やさらに東国へ支配域を広げたいヤマト政権にとって極めて重要な地域であったことから、各務原台地の縁辺部に坊の塚古墳が造られたのではないかと考えられます。

【参考文献】

- (注1) 各務原市教育委員会『各務原市史』1983
- (注2) 大垣市教育委員会『史跡昼飯大塚古墳』2003
- (注3) 中井正幸「前期古墳から中期古墳へ」『美濃・飛騨の古墳とその社会』2001



写真1 坊の塚古墳から低位段丘面を望む

山後2号墳発掘調査

山後2号墳は、那加山後町に残る独立丘陵「石山」の北側に点在する「山後古墳群」の中の1基です。現在までに、滅失したものも含めて9基の古墳が確認されています。平成30年、山後2号墳が残る竹藪の開発が計画されたことから、各務原市埋蔵文化財調査センターでは、開発によって消滅する古墳の緊急発掘調査を平成30年10月11日から11月18日にかけて行いました。



写真1 山後2号墳全景

約1か月に及ぶ発掘調査の結果、土を丸く盛り上げた墳丘や横穴式石室、古墳の周囲をめぐる周壕などが次々と明らかになりました(写真1)。山後2号墳は、石室の形状や出土した土器等から、6世紀後半に造られたと推定されます。山後古墳群はこれまでに発掘調査の事例がありませんでしたが、今回の調査によって貴重な資料を得ることができました。

調査成果① 墳丘

山後2号墳は、直径約16mの円墳であることがわかりました。墳丘の裾部分には外護列石が配置されていました(写真2)。外護列石とは、横穴式石室の開口部から連続して墳丘の周囲をめぐるもので、横穴式石室の導入とともに採用された古墳築造の技術です。山後2号墳では、開口部付近で外護列石を確認しており、墳丘正面を保護し化粧するためのものと考えられます。



写真2 外護列石検出状況

調査成果② 横穴式石室

埋葬施設は、開口部を西側に向けた横穴式石室です。石室の入口である前庭部、実際に遺体を埋葬した玄室、前庭部と玄室の間にある羨道に分かれています(写真1)。玄室の奥壁は東側の道路工事により失われており、確認することができませんでした。

玄室の平面形は単なる長方形ではなく、中央がやや広がっています。この形は「胴張り」といわれています。玄室は礫を貼って床を造っており、礫がなくなる所を境にして羨道と分けられます。羨道は直線的に延び、前庭部はハの字状に広がっています。

調査成果③ 出土遺物



写真3 前庭部の遺物出土状況

玄室の礫床から、瑪瑙製勾玉、ガラス玉、鉄製馬具等の副葬品が出土しました(表紙)。ガラス玉は小さく、礫の間に挟まっていた。他には坏蓋や坏身、高坏等の須恵器が多く出土しています(写真3)。



体験発掘(10月~11月)

発掘調査中、職場体験として8人の中学生が体験発掘に参加しました。石室内を掘削しましたが、無数の竹根に阻まれ苦戦していました。抜根できた時は大喜びでした。(関連記事6P)



現地説明会(12月2日)

発掘調査が終わった後、地元の方の希望により現地説明会を開きました。石室内を歩いたり出土した遺物に触ったりと、普段はできない体験に興味津々の様子でした。

古代の馬と人々

～30年度の発掘調査成果から～

私たちが遺跡の発掘調査を行っている、「馬」にしばしば出会うことがあります。もちろん生きている馬ではなく、遺跡から発掘される昔の「馬」です。今回は、今年度の発掘調査で出会った馬から、古代の人々と馬との関わりを紹介してみたいと思います。

馬は古くから日本人とも関わりの深い動物ですが、元々日本列島に生息していたわけではなく、古墳時代のなかば5世紀頃より、大陸から朝鮮半島を通じて組織的な輸入や飼育が始まったという説が現在では有力です。

(写真1)は、山後2号墳の発掘調査で出土した鉄製の「馬具」で、轡の一部と思われます。「轡」とは、馬の口に咬ませ一方に手綱をつないで馬を御する器具です。山後2号墳の築造は6世紀後半まで遡ると思われ、同時代の大牧古墳群(鶉沼地区)、西洞山古墳群(稲羽地区)などからも鉄製馬具の出土が見られることから、この時代には各務原でも広く馬が飼われていたことがわかります。馬を数多く飼いならすことで、当時の人々の移動や農耕、戦闘などにおいて大きな変革をもたらされたことでしょう。

また、この馬具は古墳に死者とともに副葬されていたことから、勾玉や剣などと同様に埋葬者の所有物に近い印象を受けます。当時の人々も、現代の私たちが飼うペットのような感覚で馬と接していたのかもしれませんが。



写真1 山後2号墳石室内出土 轡(くつわ)

(写真2)は、広畑野口遺跡から出土した陶馬と呼ばれる土を焼いて作った馬の胴体です。元々あった頭部や脚部は欠損し、調査地内の溝の中に捨てられたように埋まっていた。広畑野口遺跡は、市内蘇原地区の白鳳

～平安時代(7世紀後半～9世紀)を中心とした集落遺跡で、古代野口廃寺や古代の官衙推定地など、重要な施設も含まれています。

一般に飛鳥時代～平安時代に製作された土馬、陶馬(注1)と呼ばれる焼き物の目的は、神霊が依り付くための馬を模して造った祭祀用の形代です。形代とは、疫病や



写真2 広畑野口遺跡出土 陶馬(胴体)

自然災害などの災いを託して追い払うために造られた人形などを指し、実際の人や動物などに代わって祭祀に捧げられるものです。当時の陶馬に託されたのは、川や井戸など水に関わる祭祀や雨乞いの祈禱のほか、疾病の駆除などにも用いられたとされます。穢れが憑いた陶馬は、たいてい脚や首を折られた状態で廃棄されることが多いようです。



参考 稲田山古窯跡出土
陶馬(完形品)

この陶馬は、鞍や轡などの装飾のない素朴な造りですが、やはり付近で行われた古代の祭祀で使用されたものと思われます。現在私たちが知る馬よりもずんぐりした印象を受けるのは、当時の馬がモンゴルを原産地とする小型の在来種で、近代以降のサラブレッドなどとは種が異なるためです。人よりもはるかに大きな力を持つ馬に対する、古代の人々の怖れと親しみが感じられるような遺物と言えるのではないのでしょうか。

(注1) 陶馬とは、当時の須恵器と同様に窯で製作された馬形、土馬は土を焼いただけ(土師質)の馬形を指します。

【参考文献】

諫早直人 2012「馬匹生産の開始と交通網の再編」『古墳時代の考古学7』同成社
松尾洋平 2012「岡山県における古代神仏習合の一様相 ―土馬・陶馬の分析を通して―」『古事：天理大学考古学・民俗学研究紀要』16 天理大学考古学研究室

歴史ギャラリー

テーマ	特別展示 「坊の塚古墳 - 発掘された巨大前方後円墳」
会場	中央図書館3階 歴史ギャラリー
内容	平成27年より坊の塚古墳の発掘を継続中です。発掘調査で出土したばかりの副葬品や埴輪、葺石や石槨を構成していた石材などをいち早く展示公開しました。

野外セミナー

29人

テーマ	灰釉陶器を生んだ尾張猿投窯を知る
開催日	2月28日(木)
会場	みよし市歴史民俗資料館(みよし市三好町陣取山44-1) 愛知県史跡 黒笹 7号窯他(愛知郡東郷町大字諸輪字百々51-271) 愛知県陶磁美術館(瀬戸市南山口町234)
内容	古代東海地方の代表的な焼き物生産地であり、美濃須衛古窯跡群の陶器生産にも大きな影響を与えた古代～中世の尾張猿投窯の姿を現地にて学びました。また、猿投窯で最初に生産されたとされる「灰釉陶器」について知識を深めました。

考古資料の貸出・展示

テーマ	市町村との連携展示 各務原市と関市の古墳
開催期間	7月31日(火)～9月2日(日)
会場	岐阜県博物館
貸出品目	坊の塚古墳出土遺物:滑石製勾玉、管玉、臼玉、刀子、斧、円筒埴輪、壺形埴輪、食物形土製品、土器(高坏、小型丸底壺)
	47点

テーマ	特別展 発掘された日本列島2018
開催期間	9月22日(土)～10月31日(水)
会場	岐阜市歴史博物館
貸出品目	坊の塚古墳出土遺物:滑石製勾玉、管玉、臼玉、刀子、斧、円筒埴輪、食物形土製品、土器(小型丸底壺)、石槨構築材 鶴沼古市場遺跡出土遺物:須恵器(墨書)、製塩土器、金属製紡錘車、和鏡 真名越遺跡:金属製紡錘車
	64点

テーマ	特別展 人とともに生きた馬
開催期間	10月27日(土)～12月9日(日)
会場	三重県 松阪市文化財センター-はにわ館
貸出品目	寒洞古窯跡群出土遺物:陶馬4点 福田山古窯跡群出土遺物:陶馬2点
	6点

刊行物

1	埋文センターだより第27号「轍-わだち」
---	----------------------

職場体験等受け入れ

8人

実施日	参加者
10月25日(木)、26日(金)	中央中学校 4人
10月31日(水)、11月1日(木)	蘇原中学校 4人



石室内の土から勾玉などの遺物をさがす作業を体験

かかみがはら寺子屋事業 ジュニア考古学教室

17人

参加者	小学校4年生～中学生
開催日	8月2日(木)、3日(金)
内容	市内などの小中学生13人と保護者の方4人が参加しました。 1日目は青塚古墳の見学、坊の塚古墳の発掘調査に挑戦しました。 2日目は須恵器の講義を受けたのち、接合や拓本作業など、遺物の整理作業を体験しました。



犬山市 青塚古墳を見学

夏休み!埋文体験講座 古代アクセサリーをつくろう!

45人

参加者	小学生以上
開催日	7月28日(土)、8月4日(土)
会場	各務原市教育センター「すてっぷ」研修室
参加人数	7/28 23人、8/4 22人
内容	市内の遺跡から出土した勾玉や石製模造品をモデルに、滑石を削って古代のアクセサリーづくりに挑戦しました。

レギュラーメニュー講座

勾玉づくり 42人

開催日	5月27日(日)、7月31日(火)、8月5日(日)、9日(木)、19日(日)、23日(木)、10月13日(土)、11月29日(水)
-----	---

火おこし・拓本しおりづくり・縄文アクセサリーづくり・アンギン編み

開催日	7月26日(木)、31日(火)、8月23日(木)、29日(水)、11月29日(木)
-----	---

土器・石器鑑定局

開催日	8月14日(火)
-----	----------



勾玉づくり

アンギン編み

縄文アクセサリー

出張・出前講座

参加者	那加第二小学校1～6年生 37人と保護者
テーマ	学校開放デー 勾玉づくり
開催日	11月10日(土)
会場	那加第二小学校

開催日	テーマ・団体名
7月5日(木)	「大牧1号墳と出土した遺物について」陵南小学校6年生
11月6日(火)	「山田寺・加佐美神社/蘇原の古い時代」蘇原第一小学校6年生
1月17日(水)	2月例会「古墳時代を発掘する」ヒストリー各務野
3月3日(日)	「山後2号墳発掘報告会」山後町自治会

各務原市埋蔵文化財調査センター・歴史ギャラリー

〒504-0911 岐阜県各務原市那加門前町3丁目1-3(市民公園内 中央図書館3階)
TEL/058-383-1123 FAX/058-383-8655 MAIL/maibun@city.kakamigahara.gifu.jp
URL/ http://www.city.kakamigahara.lg.jp/maibun/index.html